

平成28年度 事業報告書

平成28年度における重要無形文化財人形浄瑠璃文楽の伝承及び普及事業等の実施にあたっては、文化庁、大阪府並びに日本芸術文化振興会（国立文楽劇場）等の関係諸団体との連携・協力をさらに密接にしながら、公演事業への取り組み強化、伝承事業の充実に努めた。

中でも、大阪（国立文楽劇場）・東京（国立劇場）での本公演を始め、協会の自主公演である地方公演及びその他の特別公演等の実施にあたっては、これまでの実績を活かし、より充実した公演活動に努めた。

特に地方公演については、芸術文化振興基金等の助成制度を積極的に活用して、所期の事業成果を収めた。

さらに、文楽の普及啓発と国立文楽劇場への誘客を図るための試みとして、本年度も前年度に引き続き文楽に馴染みの少ない人達に文楽を知ってもらい親しんでもらうため、解説を中心に体験や短時間公演で構成する普及啓発事業を実施した。

1. 公演事業

(1) 本公演（国立文楽劇場、国立劇場主催）

国立文楽劇場及び国立劇場主催の本公演は、大阪・東京を併せて136日（307回）であった。

（ ）内は、前年度実績

公 演 地	期 間	日数・公演数	観 客 数
大 阪 (国立文楽劇場)	4/2～24	22日 44回	20,602人
	7/23～8/9	18日 54回	23,345人
	10/29～11/20	22日 44回	19,968人
	(H28) 1/3～26	23日 46回	21,088人
計		85日 188回	85,003人
		(85日 187回)	(89,038人)

東京 (国立劇場)	9/3～19	17日 34回	17,806人
	12/3～19	17日 34回	18,667人
	(H29) 2/4～2/20	17日 51回	25,795人
計		51日 119回 (51日 119回)	62,268人 (56,814人)
合計		136日 307回 (136日 306回)	147,271人 (145,852人)

(2) 地方公演（文楽協会主催）

地方公演は、秋季及び春季に全国各地を巡演し、24日間にわたり計47回の公演を行い、広く全国各地の文楽愛好家等の期待に応えた。

()内は、前年度実績

公演地	期間	日数・公演数	観客数
近畿・北海道 東北・関東 信州・東海	10/1～10/19	10日 20回	8,794人
近畿・中国 九州・関東 東海	(H29) 2/25～3/20	14日 27回	11,371人
合計		24日 47回 (22日 42回)	20,165人 (18,572人)

(3) 青少年を対象とした公演（国立文楽劇場・国立劇場主催）

青少年を対象とした公演は、国立文楽劇場及び国立劇場主催の「文楽鑑賞教室」を大阪（14日28回）・東京（13日24回）で実施したほか、同じく国立文楽劇場及び国立劇場主催による若手技芸員を中心とした「若

手公演」を大阪（2日2回）・東京（15日15回）で実施した。

①文楽鑑賞教室（国立文楽劇場・国立劇場主催）

（ ）内は、前年度実績

公 演 地	期 間	日数・公演数	観 客 数
大 阪 (国立文楽劇場)	6/3～16	14日 28回	19,719人
東 京 (国立劇場)	5/11～23	13日 24回	13,125人
合 計		27日 52回 (27日 52回)	32,844人 (33,720人)

②若手公演（国立文楽劇場・国立劇場主催）

（ ）内は、前年度実績

公 演 地	期 間	日数・公演数	観 客 数
大 阪 (国立文楽劇場)	6/18～19	2日 2回	1,303人
東 京 (国立劇場)	5/11～23	13日 13回	7,052人
東 京 (国立劇場)	6/25～26	2日 2回	1,088人
合 計		17日 17回 (17日 17回)	9,443人 (9,399人)

(4) 特別公演事業

京都ギオンコーナーへの出演を始め、中日劇場、内子座（愛媛県）のほか、にっぽん文楽プロジェクト浅草寺公演など大小20件の公演を実施した。

主な特別公演事業

() 内は、前年度実績

公 演 名	期 間	日数・公演数	観 客 数
京都 ギオンコーナー	4/1～11/30 (H29)3/17～3/31	257日 (263日)	72,499人 (73,707人)
中日劇場	5/28～29	2日 4回 (2日 4回)	3,765人 (3,353人)
内子座	8/20～21	2日 4回 (2日 4回)	1,763人 (1,739人)
中之島文楽	8/25～26	2日 2回 (3日 3回)	1,400人 (1,630人)
文化庁・巡回公演	10/3～7	5日 5回 (7日 7回)	1,158人 (2,149人)
にっぽん文楽プロジ ェクト（浅草寺）	10/15～18	3日 6回	2,001人
日経文楽の夕べ	11/24	1日 1回 (1日 1回)	950人 (950人)
愛知高校	11/25	1日 2回	2,250人
にっぽん文楽プロジ ェクト（伊勢神宮）	(H29)3/11～14	4日 7回	2,300人
ヴィアール大阪	(H29)3/20	1日 2回 (1日 2回)	700人 (584人)

2. 伝承事業

本年度の契約技芸員数及び内訳は、次のとおりである。

契約技芸員数	太夫	三味線	人形
86名	22名	21名	43名

技芸の伝承・向上を目的として、師匠・弟子間の研修・指導に重点をおいた取り組みを推進するとともに、技芸員の舞台活動を支援するために舞台活動に必要な着付、黒衣、三味線等の購入等に際し助成を行った。

また当協会・国立文楽劇場が連携して若手技芸員による自発的な勉強会の開催に対して積極的な協力・助成を行った。

さらに、真摯な舞台を務め、技芸の向上が著しい若手技芸員に対し文楽協会賞を贈った。

(1) 若手技芸員発表会

平成28年8月10日 蝠聚会（国立文楽劇場小ホール）

(2) 文楽協会賞表彰

3名（豊竹靖太夫、鶴澤清丈、吉田簀太郎）

3. 後継者育成事業

文楽の技芸員を目指して独立行政法人日本芸術文化振興会の文楽研修生として2年間の研修を受ける者に対して、助成を行った。

・研修生に養成費（3名 180万円）の貸与を行った。

4. 普及啓発事業

これまで文楽に馴染みの少なかった人達に、文楽を知ってもらい親しんでもらうため、さらに国立文楽劇場への誘客を図るため、普及啓発事業として三業の役割解説や短時間の文楽公演を実施した。

・普及啓発事業

実 施 場 所	公 演 日
阿倍野区民センター（大阪市阿倍野区）	10/10
放送芸術学院専門学校（大阪市北区）	11/23
道頓堀・戎舞台（大阪府中央区）	(H29)1/10
阪急うめだホール（大阪市北区）	(H29)3/3
日本民家集落博物館（豊中市服部緑地）	(H29)3/18

【 附属明細書 】

事業報告書に詳細まで記載しているため、記載する事項はありません。